

2型糖尿病の病態把握における MPV（平均血小板容積）の有用性に関する検討

◎井上 裕行¹⁾、斉藤 真裕美¹⁾、胡内 久美子¹⁾、中村 文彦¹⁾
地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター¹⁾

【目的】MPV は心疾患の発症リスクとの関連性が数多く報告され、現在注目されているマーカーである。今回、MPV に示される血小板サイズの増加が2型糖尿病の病態に関連する可能性を考え検討を行った。

【方法】2014年8月から2015年12月の期間において、当院の外来患者を健常人(Control 群)・境界型患者(pre-DM 群)・2型糖尿病患者(T2DM 群)の3群に分けて解析した。MPV の測定には自動血球計数装置 ADVIA2120i (SIEMENS)を用いた。

【結果】MPV はT2DM 群およびpre-DM 群で有意に増加していた。さらに、MPV と空腹時血糖値およびHbA1c は有意な正の相関を示した。次に、動脈硬化関連指標として心臓足首血管指数(CAVI)および平均頸動脈内中膜厚(Mean-IMT)を測定したところ、T2DM 群で有意に増加していた。さらなる検討として、T2DM 群をMPV の大きい群と小さい群に分けてCAVIについて解析した。すると、MPV が小さいT2DM 群ではCAVI が有意に低下していた。すなわち、T2DM 群における動脈硬化の進展レベルの違いにMPV が関連している可能性が考えられた。また、CAVI9.0以下の動脈硬化症を起こしていないT2DM 群において

もMPV は有意に増加していた。つまり、2型糖尿病患者における動脈硬化症の進展は、MPV 増加の原因というよりもむしろ結果である可能性が示唆された。

【結論】2型糖尿病患者では、高血糖などの糖尿病状態によってMPV が増加し、動脈硬化症の進展に関連する可能性が考えられた。

連絡先:0742-46-6001 (内線:2523)